

## 温泉の揭示内容

### I. 成分

- |                   |   |
|-------------------|---|
| 1. 湧出地            | 神戸市北区有馬町杉ヶ谷1325-1<br>(炭酸泉源)                         |
| 2. 泉質             | 含二酸化炭素・鉄－単純冷鉱泉<br>(低張性、弱酸性、冷鉱泉)                     |
| 3. 泉温             | 18.3℃ (気温21℃)                                       |
| 4. 温泉の成分          |   |
| ①性状               | 無色澄明炭酸味鉄味無臭、ガス発泡ガス発生あり。<br>長期間放置すると、黄色僅微濁炭酸味鉄味甘味無臭。 |
| ②水素イオン濃度(pH値)     | 4.3   |
| ③密度(20℃/4℃)       | 0.9987g/cm <sup>3</sup>                             |
| ④蒸発残留物(110℃)      | 0.422g/kg   |
| ⑤ラドン(Rn)含有量       | 23.3Bq/kg (6.30×10 <sup>-10</sup> Ci/kg、1.73マッヘ単位)  |
| ⑥試料1kg中の成分、分量及び組成 | <u>温泉分析書に記載のとおり</u>                                 |
| 5. 分析年月日          | 令和元年10月25日  |
| 6. 分析者            | 公益財団法人 中央温泉研究所<br>14健地衛第1号                          |

## II. 飲用の禁忌症及び注意事項

### 1. 含有成分別禁忌症

1日に250ml（よう化物イオンの含有量から算出される限界）を超えて温泉を飲む場合  
：甲状腺機能亢進症

### 2. 飲用の方法及び注意

温泉は、湧出後、時間の経過とともに変化がみられるため、地中から湧出した直後の新鮮な温泉が最も効用があるといわれているが、それぞれの泉質に適する用い方をしなければ、かえって身体に不利に作用する場合もあるので、温泉の飲用は、以下の事項を守って行う必要がある。

なお、温泉を飲用に供する場合は、当該施設の設置者等は新鮮な温泉を用いるとともに、源泉及び飲泉施設について十分な公衆衛生上の配慮を行う必要がある。

ア. 飲泉療養に際しては、専門的知識を有する医師の指導を受けること。また、服薬治療中の人は、主治医の意見を聴くこと。

イ. 15歳以下の人については、原則的には飲用を避けること。ただし、専門的知識を有する医師の指導を受ける飲泉については例外とすること。

ウ. 飲泉は決められた場所で、源泉を直接引いた新鮮な温泉を飲むこと。

エ. 温泉飲用の1回の量は一般に100～150mL程度とし、その1日の総量はおよそ200～500mLまでとすること。

オ. 飲泉には、自身専用又は使い捨てのコップなど衛生的なものを用いること。

カ. 飲泉は一般に食事の30分程度前に行うことが望ましいこと。

キ. 飲泉場から飲用目的で温泉水を持ち帰らないこと。

ク. 飲む際には、誤嚥に注意すること。

（注）誤嚥とは、うがいや焦って飲むことなどにより、肺や気管に水分を吸い込んでしまうことをいう。なお、嚥下障害を発症している人は飲泉を行わないこと。

3. 決定年月日                      令和3年3月10日

4. 決定者                              神戸市

## 飲用の適応症について

温泉療養を行うにあたっては、以下の点を理解して行う必要がある。

- ① 温泉療養の効用は、温泉の含有成分などの化学的因子、温熱その他の物理的因子、温泉地の地勢及び気候、利用者の生活リズムの変化その他諸般によって起こる総合作用による心理反応などを含む生体反応であること。
- ② 温泉療養は、特定の病気を治癒させるよりも、療養を行う人の持つ症状、苦痛を軽減し、健康の回復、増進を図ることで全体的改善効用を得ることを目的とすること。
- ③ 温泉療養は短期間でも精神的なリフレッシュなど相応の効用が得られるが、十分な効用を得るためには通常2～3週間の療養期間を適当とすること。
- ④ 適応症でも、その病期又は療養を行う人の状態によっては悪化する場合があるので、温泉療養は専門的知識を有する医師による薬物、運動と休養、睡眠、食事などを含む指示、指導のもとに行うことが望ましいこと。
- ⑤ 従来より、適応症については、その効用は総合作用による心理反応などを含む生体反応によるもので、温泉の成分のみによって各温泉の効用を確定することは困難であるが、おおむね下記のとおりとすること。

## 記

### 1. 泉質別適応症

胃腸機能低下、鉄欠乏性貧血

2. 決定年月日 令和3年3月10日

3. 決定者 神戸市